

令和4年度

第1号

令和4年 7月発行

# 学校運営協議会だより

令和4年度 学校運営協議会(第1回)が6月20日に開催されました。6月1日より今年度の学校協議委員が任命されスタートしました。地域の皆様から7名、学校からは3名の委員が委嘱されました。上砂川小学校の学校教育の充実にに向けて取り組んでまいります。第1回学校運営協議会の内容をお伝えします。

## 学校運営協議委員紹介

地域住民	長谷川 俊之 (上砂わいわい広場委員長)
地域住民	福永 毅 (上砂わいわい広場副委員長)
地域住民	平山 いづみ (元立川市教育委員会教育委員)
地域住民	荒井 邦江 (民生委員)
保護者	草間 由香里 (PTA会長)
学区内保育園園長	森田 和子 (見影橋保育園園長)
行政機関職員	浅見 由希乃 (第六地区 地域福祉コーディネーター)
本校校長	福原 憲生
本校副校長	齋藤 祐介
本校経営専任主任	市村 貴広

## 令和4年度 第1回学校運営協議会で確認した本年度の方針

- 1 令和4年度教育課程の効果検証を行う
  - 視点1 学力向上
  - 視点2 不登校、学校不適応対策
  - 視点3 教職員のライフワークバランス
- 2 検証内容から、令和5年度教育課程編成に向けた提言をおこなう
- 3 承認した教育課程の説明会を実施する
- 4 これまでの漢字検定の実施状況を踏まえ、本年度は実施を見合わせる

## 第1回学校運営協議会議事録

### 1 今年度の学校運営協議会の委員の任命について 福原校長

任期は令和4年6月1日から令和5年5月31日までになりますので、一年間ご協力よろしく申し上げます。令和4年度学校運営協議会、委員長を長谷川さん。副委員長を福永さん、平山さんをお願いします。

### 2 本年度の学校経営方針等について 福原校長

自ら考える子、心美しい子、たくましい子この教育目標に照らしてこれを目標に子供たちを近づけるためにどうしたらよいのかという視点で考えている。

- ・子供の安全や利益を最優先に物事を判断していきたい。
- ・先生たちが前例にとらわれることなく目的達成に向かって工夫して行って欲しい。
- ・地域や保護者とつながって、それを大切に信頼を高める教職員集団にしていきたい。

### 3 学校運営協議会の役割について 長谷川委員長

学校運営協議会の役割は、令和4年度 立川市教育委員会学校教育の指針に示されている。

昨年度までは学校側が計画、問題提起をされて審議してきた。今年度は、学校運営協議会からも提案し審議していきたい。漢字検定の実施については、学校の負担も大きくなってきているので続けるのか、変えていくのか協議していきたい。よりよい学校づくりの為に協力をお願いします。

### 4 魅力ある教育課程と目指す取り組み 福原校長

地域の中の学校を充実させ、子供たちに合った教育課程を作っていくことを学校運営協議会の大きな目的にしていきたい。

令和5年1月28日の学校公開日に来年度の教育課程について学校運営協議会から保護者の皆様へ説明していただくことをゴールとしていきたい。

#### ○教務部、生活指導部、特別活動・学校行事部、研究推進委員会の目標について

教員に取組目標と成果目標を定めてもらった。今年度は4つの項目について重点的に取組んでいこうと考えている。前半で評価をし、後半でどれだけ伸びたか見ていけたらと思う。教員自身がしっかり目標を持ってそれに向かって取組んでいく内容になっている。結果は学校運営協議会でお知らせしたいと思っている。

#### ○令和4年度の魅力ある教育課程を目指す取組

来年度の教育課程を作るにあたり、課題解決のための方策だということ三点あげさせていただいた。課題の改善を図っていかなければ子供たちの為にはならないと考えている。

#### 【課題解決のための方策】

##### ①学力の向上のために

授業の改善、教育力の向上を図る。どちらかという先生たちが改善を図って子供たちの指導にあたる内容としていく

##### ②不登校・学校不適応対策の充実

不登校支援委員会の定期的な開催、学びの場の確保やタブレットの活用など

##### ③教職員のワークライフバランスの改善を図る

学校閉庁日を設ける。計画的な休暇の取得。SSS(スクール・サポート・スタッフ)の活用やICT機器の活用など

これについて効果検証を行っていき、来年度、学校運営協議会から提言を図っていけたらよいと思う。この一年間の視点で学校を見ていただきたい。

① 令和3年度の本校の学力の状況について

・全国学力調査

昨年度6年生が5年生の内容で実施。国語、算数ともに学習内容の定着が不十分なまま中学校へ送り出している。発展的な内容の回答率が出ていない。国語科の指導との連携で、文章を読んで何を問われているのか分かりきれず、算数の発展的領域の正答率が下がっている。基礎基本の定着は見られているが、それでもまだまだというところがある。

・総合学力調査(ベネッセ・学校独自)年二回実施。

一回目は前の学年の内容を実施。二回目は10月末位までの内容を実施。

全国と比べても本校の学力が届ききれていないことがわかる。二回目に関しては習った直後に実施していることもあり正答率が出ています。授業や補習、課題、家庭学習で差が埋まってきているが、課題も多い。

・東京ベーシックドリル診断テスト 年3回実施

東京都としては、前年度の学年の内容なので正答数は小問ではなく、大問となっている。基礎的内容がとらえきれない部分があり、朝の学習やタブレットドリルを活用している。タブレットドリルについては、確実に個人ごとに対策が練れているかということ、子供たちの取り組み具合もあり、100%取組んでいるかどうかは課題である。

【協議】

福原校長

東京都の平均値にいかにか近づけていくかが一つの課題。取り組み内容については今年初めて行う内容ではない。これまでも行ってきたにもかかわらず成果が上がらないのは、何かに課題がある。これを探っていくと新しいことには踏み出せない。例えば主体的・対話的で深い学びとあるが、授業自体がちゃんと考えさせる授業になっているのか。算数の習熟度別指導は3年生以上で5つのグループに分けて行っているが、効果的なのか検証していかなければならない。

平山副委員長

不登校や別室指導の児童について学力テストは実施できているのか。

→極力実施できるように対応している。完全に不登校の児童に対してもできるだけ実施できるように取り組んでいる。

成果目標については何をもって評価していくのか。

→子供たちにアンケートを取る予定。それを一つの評価材料としていく。

長谷川委員長

学習機会の複線化とは何か。

→学んだことをどう活用していくのか、活用の場面をどう作っていくか。実践的な教育を行っていくこと。

② 不登校・学校不適合対策について

・登校支援室「ホットステーション」を作り、別室で対応している。

・それぞれに、それぞれの理由がある。理由がわからないお子さんもいる。

・上砂川小では年度ごとにクラス替えや、先生たちが変わり新たな気持ちでスタートできる仕組みになっている。

【協議】

長谷川委員長

改善はされているのか。

→この二か月は変わらない。

草間委員

不登校、学校不適合児童に対して現場の先生方はどのような対応をされているのか。

→個々によって違う。その時の状況によっても違う。対応が難しい。

平山副委員長

スクールソーシャルワーカーの活用はどうしているのか

→半分くらいの児童は活用している。

福原校長

個々に応じた対応をしていかなければならない。私たちの価値観を押し付けるわけにはいかないので担任の先生も大変だが、そうしなければ解決に結びつかないと改めて認識している。

③ 教職員のライフワークバランスについて

令和3年度の有給取得率は40%。今年度の取り組みで有給取得率があがるとよいと考えている。昨年度は病気休暇よりは、有給休暇でという教員もいたので取得率が下がるかもしれない。有給取得率が上がれば余裕を持った生活が送れたということになるのではと思う。

週休日等の勤務人数と平日21時前に退勤できた日はかなり少なく、土日、GWも出勤している教員がいる。21時以降に退勤している先生もほぼ毎日いる。朝学校に出勤してから夜遅くまで働き詰めの状況になっている。そういった状況が子供たちの為に良いのか悪いのかが一つの視点になってくると思う。制度上、変えていくことは不可能だが、何か工夫して変えていかなければならない。

【協議】

平山副委員長

遅くまで働いている教員は固定されているのか。

→偏りはある。

電話対応が7:45~18:00までになっている効果は感じるか。

→勤務時間を超過しているところで転送になるので何とも言えないが、以前に比べれば遅い時間帯の電話対応はなくなった。

長谷川委員長

学校閉庁日はどういうものか。

→教職員が出勤しない日とし、夏季休業期間に設定している。

週に1日位は21時前に退勤できるように工夫できないか。

→水曜日は定時退庁日と定めている。

SSSは活用しているのか

→都の事業で年間1260時間を上限となっており、2名体制で年間1260時間勤務していただいている。朝からプリントの印刷、ベーシックドリルなどのデータの集積作業をお願いしている。

市村主幹教諭

子供に合わせた授業の準備、プリント作成などに時間がかかる。

福原校長

だからと言ってこのままでは、子供の為にもならない。学校運営協議会のみなさんのお知恵をいただいて改善していきたい。学校運営協議会のみなさんは学校の準職員なので、学校に足を運んでいいいただいて、授業や子供たちの様子を見ていただいて効果検証のお手伝いをしていただけたらと思う。よろしく願いいたします。

④ その他

齋藤副校長

漢検の件、申し込みの際の子供のデータを使用するで、学校で名簿を作成して、申し込みをしていた。当日の準備や、解答用紙の発送などを考えると検討が必要。

平山副委員長

学校の負担を軽減するために始めたが、負担が増えているのではよくない。

長谷川委員長

保護者や地域の方にも参加できたらと思って始めたが、参加者は少ないのが現状である。それならば他の行事をやってみたらという思いはある。

福原校長

今年度は来年度の養育過程を作ることに専念し、漢検については見送る方向でどうか。

長谷川委員長

漢検については今年度は見送り。二学期三学期で保護者などともやれることをみんなで考えていきたい。